

創立30周年記念特集 ~共に学びあい、成長し続けた30年

(1) 1991年(平成3年)11月15日 中小企業家しんぶん (第三刷刷数限定) 第482号

中小企業家しんぶん

1991年(平成3年) 11月15日 第482号

晩秋の東北に38番目の同友会 岩手同友会72名で発足

北東北三県に初めて

人間尊重の企業づくりテーマに

自分が変われば企業も

深みを増す教育論

社員教育全国交流会に97名

1991年(平成3年)11月15日 第482号



写真で見る 岩手同友会の30年

岩手同友会は昨年2021年11月2日、創立から30周年を迎えました。コロナ禍のなかで延期していた記念式典を11月30日に開催します。これまでの歩みを写真で振り返ります。



全国 38 番目の同友会 72 名で創立

1995年

・第1回新入会員合同入社式

1994年

・経営指針委員会
第1回発表会

1991年

・岩手同友会創立

会員数 72 名





2000年	1999年	1998年	1997年	1996年
・第100回例会開催	・会員200名達成	・100人例会 中同協会長 赤石義博氏	・女性部会の創立 (委員会から部会へ)	創立5周年





川徳デパート前で街頭署名

金融アセスメント法制定に向けた街頭署名活動を行いました。理事、事務局を中心に12名が参加し、午前10時から2時間半で三百七十名の署名を集める事が出来ました。川徳デパートは「えびす講大売出し」の期間で大勢の人通りを期待したのですが、午前10時の気温は五度、人通りもまばらで、「人が集まるのだろうか」と不安がよぎりましたが、次第に人通りが増え、署名用の机に殆ど人が切れない程、署名に協力していただきました。参加された理事の方々も寒さの中、マイクを持って「地域経済発展のため、中小企業経営発展のため」と叫ぶ人、交差点で人を持ち受けては、アセスの説明をする人、パンフレットを配る人とそれぞれの役割を積極的にこなしていました。今回の街頭署名活動は岩手同友会として初めての試みで、経営者自ら街頭に立ち一般の人々に呼びかけた意義は大きかったと思います。また、「最近では署名活動にあまり場所を提供していません」と話していた川徳デパートも、同友会と金融アセスメント法に理解を示して頂き、場所の許可に加え署名机まで貸していただいた事に心から感謝いたします。

2005年

- ・盛岡支部創立
- ・初めての合同企業説明会開催

2004年

- ・はやて支部創立
- ・三県合同 女性部例会 in くずまき
- ・いわて同友寺子屋開講
- ・第1期経営指針を創る会

2003年

- ・二戸市 200名講演会 山口義行氏

2002年

- ・金融アセスメント法制定 署名100万筆達成

2001年

- ・創立10周年





2010年

2009年

2008年

2007年

2006年

- ・第1期同友会大学開講
- ・いわて青年未来塾
- ・気仙支部 共育講演会 650人で開催

- ・初めての全国大会
- ・第46回青年経営者全国交流会 盛岡開催
- ・久慈洋野支部創立
- ・共に生きる部会 全県例会
- ・気仙支部植松氏講演会

- ・気仙支部創立

- ・創立15周年
- ・宮古支部創立
- ・農業食糧生産部会創立
- ・“共育”懇談会初開催
- ・大田堯氏共育講演会 600人で開催





2015年

- ・エネルギーシフト 第1回欧州視察
- ・第47回定時総会 (中同協全国総会) 開催
- ・岩手県中小企業振興条例 制定

2014年

- ・紫波支部創立 (現県央支部)
- ・県南支部創立

2013年

2012年

2011年

- ・創立20周年
- ・東日本大震災発災

最高会勢 453名





2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年
<p>創立 30 周年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同求人 中小企業展開催 ・中同協経営労働問題全国交流会 in 岩手 ・第 18 回経営研究集会 in 紫波 			<ul style="list-style-type: none"> ・新青年部創立 ・岩手県信連との連携協定 ・第 17 回経営研究集会 in 気仙 (初の支部開催) 		<p>創立 25 周年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーシフト講演会 in くずまき ・エネルギーシフト講演会 in 気仙



支部通信

盛岡支部

9月8日(木)盛岡支部9月例会が、プラザおでっ大会議室で行われました。

報告に立っていただいた、(株)中原商店 常務取締役 邊公哲氏より「ライフストーリー×困難な経験×事業戦略II」をテーマにお話しいただきました。

祖父の邊致三氏が神戸で靴の製造販売を始めた1946年中原商店として創業したのが始まりでした。しかし時代の流れとともに靴の製造販売から菓子製造販売そしてスクラップ加工処理業、1995年邊氏が5歳の時に父親がスクラップ業からぴよんぴよん



舎へ事業転換し、1985年祖父から現社長の父親に事業継承をしました。

社会や周囲から認められたい

当時はまだ小学生でしたが事業を引き継いだこともあり、両親は仕事で忙しくほとんど家に帰ることができない状況でした。そのため小学校の6年間は親戚の家に預けられることとなります。両親が忙しいこともあり小学校の行事にはほとんど来れる状況ではなく、預けられた親戚の家では辛く当たられることもありました。成人式では外国籍で招待状がないことが理由で式典の中には入れてもらえない。気持ちの整理をつけることができず荒れる状態が20代まで続きました。その中でも自分を助けてくれた人が3人いました。その一人がいつも近くにいて自分を支えてくれていた奥さんでした。価値観が違う人がそばにいるだけで

「こういう考え方をするんだ」。自分は、今まで「社会や周囲から認められたい」という欲求から間違えた力を得ようとしていたことに気づかされました。

変えるためには、諦めずに行動を起こすこと

両親の力を借りることもなく上京した邊氏ですが、当時は手伝いをするために時々帰盛していました。「やる気」も「戻る気」もなかったため手伝いが終わると東京に戻り、目標もありません。日々を過ごしていました。ある時、勤務していた上司から店の将来を聞かれ始めて考えるきっかけになって数ヶ月後、3年ぶりに父親から連絡が入りました。「東京に店を出すから手伝え」正直その時は悩みましたが、とりあえずやってみることにしました。

その店が、東京第1号店の「銀座百番」です。まずは働いてもらうために自分の知り合いに声をかけることから始めました。料理や接客がわからない状況でしたが周りの協



力もあり開店へと漕ぎ着けます。開店時に取材を受けたこともあり、お店には毎日列ができお客が途絶えることなく忙しい状況が3年続きました。しかし良いことばかりではありませんでした。銀座で

お店を出すためにはその場のしきたりがあったのです。以前からお店をやっている人たちはよそ者には教えてくれません。そのしきたりを全く知らずにやっていたもののお店には多くのお客様が来ます。当然周りのお店は気に入りません。「毎日店に来てのクレーム」「怒鳴られる」「看板をけられる」「石を投げら

れる」などの繰り返しでした。なぜこんなことをされるのかが分かりませんでした。しかしこのままではいけない。この状況を変えるためにはどうしたらいいのか。悩んで出た答えが「クレームの出ているお店のお客になる」ことでした。そこで自分の給料をお店に行き全て使い切ることになりました。繰り返し、繰り返し通い続けたことで、徐々に周りの人たちが変化し教えてくれるようになりました。

社員の幸福を一番に考えて

「これまでの悔しい経験から学ぶ意欲やチャレンジ精神を養うことと達成感を学ぶことができた。」そして「自分が変わればよい。」と想うようになった」と話す邊氏。

自身の辛い過去から社内での改革にも取り組んだことが、子供の誕生日、記念日、行事には家族と一緒に過ごすための休暇。そして子供の記念になるように親が着なくなった仕事用の服を、自社で子供用に仕立て直しマスコットとして使用することでした。「家

族に喜んでもらうためには子供に喜んでもらうこと。」そんな想いからでした。

ぴよんぴよん舎は「人間性の回復の場を提供する」ことを掲げています。実現するために、まずは社員が幸福になること。そして家族が働いていることに誇りを持って欲しいと考えています。

「自分の人生の棚卸と自分が今やりたいことがどうリンクしているのか意識的に気づくことで事業展望につながり、夢を与えてあげることです。定着率や成長が変わると思います。これからは事業展望と絡めて世の中に発信していきたいと思えます。」すべての経験を学びとチャレンジ精神へと変えてきた邊氏の報告でした。

県央支部

9月27日(火)9月例会がオガール大スタジオで行われました。報告者は(有)橋勝商店代表取締役 橋詰真司氏より「気仙地域のみんなの幸せの拠り所を実現したい」〜震災から11年を経て具現化した経

営理念のテーマでご報告いただきました。

地域で学ぶ場ができた喜びの矢先

橋勝商店は、橋詰氏の妻である専務の智早子氏の父親(現在は会長)が、陸前高田市で菓子の卸業として創業し地域に根差した会社でした。

しかし、時代の流れともになかなか以前のように売り上げが伸びず苦戦し、何とかしたいと平成15年に宮城同友会に入会し経営指針を創る会に参加。その後平成19年、岩手同友会に気仙支部が立ち上がりやっと地域で学ぶ場ができたことで、もう一度、一からやり直そうと第5期経営指針を創る会に夫婦で参加しました。しかし、自社の立ち位置が明確になり、進みかけこれ

からという時に起きた東日本大震災により会社が全部津波によって流され失ってしまいました。

未来展望が描けた欧州視察と10年ビジョン

何もかも全部失いどん底の状態。「でも、何故か再建をあきらめることはなかった。専務も同じ気持ちだった。」と橋詰氏は当時を振り返ります。それから約11年、二人の意見の違いや、「わが社のお客様」が見えない時期もありました。そんな中「何とかそのきつかけをつかみたい!」という強い思いから、専務の智早子氏が岩手同友会の欧州視察に参加したことで自分たちの描く幸せが見えてきました。

そこから、やるべきことが明確化し、新店舗「おかず屋和笑輪」として新たに開店することにになりました。店のコンセプトの第一は「主婦以上プロ未満」。店舗は同友会の企業同士の連携と思いで繋がっています。陸前高田中心に取れた野菜を使い、毎日変わる20種類以上の手づくりの「お



女性だけのグループ討論

た事をスタートラインとして、「けせんの食の総合商社」となるよう、また、気仙地域のさらなる拠り所の実現のため頑張っていきたい。と報告されました。

その後グループ討論では、「あなたは経営するにあたり、何を大切にし、どんな思いを持っていきますか」というテーマでグループ討論されました。今回のグループの中で全員女性だけのグループもあり、女性ならではの目線と日々経営する中で大切にしていることを話しながら活発な意見交換の場となり、大変盛り上がった例会となりました。

「けせんの食の総合商社」をめざして

「ここまで頑張ってくることでできたのは、経営理念があったからだと思えます。これからの10年。事業転換でき

「ここまで頑張ってくることでできたのは、経営理念があったからだと思えます。これからの10年。事業転換でき



これまでの歩みをパネルで紹介

2022

新入社員フォローアップ研修会

9月9日(金)アートホテル盛岡を会場に3年振りの対面形式で行われました。

当日は、21名の新入社員と17名の実行委員総勢38名で行われました。

最初に下村社員共育委員長(株)エムティワンまごころみるく(代表取締役)から入社して半年が経ち、皆さんは会社の戦力になり周りからも期待されていることと思えます。これから会社と仕事を通



じ「何のために働くのか」「何のために頑張るのか」自分の軸足をしっかり持てる時間にしていただきたいと思えます。とあいさつがありました。今年度は初めて「気づきと学びの検討シート」を使用し、「何を考え気づいたのか」「グループ討論で他の人の話から何を学んだのか」を講座毎にグループ内で共有しながらの研修になりました。これは入社した時に考えていた自分と半年後の今を確認するためのものになります。

大切なことは目標をもつこと

第1講は「入社からの振り返りと現状認識」みなさん澆刺とされていますか、をテーマに菊田事務局長の問題提起から始まりました。「4月の入社式では緊張をしながらもこれからの自分の夢に向かって希望に満ちていた自分がいたと思います。今は少し違っていますか。」「何もできなかった自分から半年たってどんな関わりがあったでしょうか。」との問いかけから、各自でシートに記入しグループ内でお互いが確認しあう1講

座。第2講「あなたが未来に実現したい夢」経営者の方の話から、自分の描いていた夢を再確認する。(有魚広代表取締役 廣田諭宇祐氏からは「自分がどんなことをしたいのか。どうなりたいたいかをイメージすることが大事です。そして想っていることを声に出し、失敗を怖れずチャレンジしてみてください。行動せずに終わった方が後悔をします。」と自身の経験から目標を持つことの大切さをお話

経験の積み重ねが自分の糧になる

第3講は「なりたいたい(ありたい)自分の再確認」先輩の話から入社した時の自分、今の自分と向き合ってみよう、をテーマに、入社3年目のSS建築デザイン室(有)の鍛形星南さんより体験報告をしていただきました。建築の専門学校を卒業したら地元に戻りたいと思い、会社を探していた時に自分がやりたいことと一致したのが今の会社でした。



一人でも悩まず周りの人に話をするようにして下さい。そして積極的にチャレンジして欲しいと思います。その積み重ねが自分の糧になっていくと思えます。」その後グループ内では「積極的になることで自分の成長にもつながり自信にもなる」「プラス思考で仕事をして行きたい」「失敗したことよりもなぜ失敗したかを考える方が大事だと思った」などが出ました。

第4講(最終講)は、「社会人としてのマナー応用編」人間としてのマナーの基礎を再確認し、相手を笑顔にできるマナーについて考える。では、グループ内で1日の研修を振り返る時間となりました。

最初は緊張の面持ちだった社員も、最後は笑顔になり対面だったからこそ表情が見られた研修会となりました。



「圧倒的な発想転換」

第50回青年経営者全国交流会 in 兵庫!

9月15日〜16日、第50回青年経営者全国交流会 in 兵庫が「圧倒的な発想展開」をスローガンに

3年ぶりのリアル開催で47都道府県、中同協から約2、250名が参加、20の分科会、記念講演、全体会を開催し熱く盛り上がった交流会でした。分科会では「青年部活動と企業づくりは不離一体」「経



営者の全人格的成長」「世界とつながる」などをテーマとした分科会でそれぞれ学び合いました。全体会では広浜泰久中同協会長から「3年ぶりのリアル開催は皆さんの熱が伝わり、青年部こそが三つの目的の『よい会社をめざす』を体現する場所になっていきます。おおいにこれから期待します。」と挨拶されました。記念講演では「圧倒的な事業モデルの創出と、その成長を支える強靱な組織づくり」『事業』『組織』『同友会』圧倒的な進化のための発想転換」をテーマに(株)デジアラホールディングス 代表取締役会長の有本哲也氏より講演がありました。そして、恒例のバトンリレーは兵庫同友会から次回開催の広島同友会にバトンが引き継がれ、「学んだ事をしっかりと実践し、来年広島でありましょう」と実行委員長より力強い挨拶がありました。



今回は第17分科会「思うとただじゃ会社はかわらんばい!」くバラバラな会社を一つにした後継者の変革のテーマで熊本同友会の(株)アドシン代表取締役社長 光澤陽介氏のご報告を紹介いたします。

社内は問題だらけ

光澤氏は役者の夢を諦め、父が経営する会社に入社します。しかし、社内は同じ会社の社員同士なのに仲が悪くバラバラ。そして残業が日常で有給休暇は取れない、優秀な社員は成長すると退社するという問題だらけの会社でした。当時の自分は、「社長(父)の考えはおかしい、会社を良

くするのが自分の使命」と社長に噛みつきながら10年以上も衝突が続きました。気が付けば業績も悪化していました。そんな時に同友会に出会い学びます。学んだ事を実践しますが、いつもトライ&エラーでうまく機能せず、債務超過ギリギリでした。経営指針も作成しますが、社長は全否定でまたさらにぶつかります。

すべてが中途半端な自分

しかしその原因は全部中途半端な自分、すべてでは自分の責任であることに気が付きます。あらためて「何のために経営しているのか」「先代の思いはなんだったのか」を考えてみました。そこから、幹部社員としっかり方向性を決め、社員の採用も指針をもとに計画、また社員教育も中堅社員にチャンスにあたえるように大きく仕組みを変えました。

改めて感じる事業承継に大切なこと

「きっと、父も社員も求めていたものはやりきる力やその背中を見せてほしかったのだらうと思います。」と光澤



氏は言います。改めて感じる事業承継に大切なことは「学んだだけではダメ、何のために目標を明確に持ち、常に感謝の気持ちと何事も本気でむきあうことが大切だと思えます。」と熱く語る光澤氏の報告でした。

分科会は約100名の参加者が集い、その後のグループ討論のテーマ「事業承継に大切なことは何だと思えますか? 周りを巻き込むために必要なリーダーの変革は何だと思えますか?」の2つのテーマで3年ぶりにリアルで開催されたグループ討論は時間が足りない程盛り上がった第17分科会でした。

ドイツからの風



池田憲昭氏

プロフィール
1972年長崎県生まれ
岩手大学人文社会科学部(ドイツ文化専攻)卒業、フライブルク大学森林環境学ディプロム課程(修士相当)卒業
フライブルク地域を拠点に、ドイツ環境視察セミナーのオーガナイザー、異文化マネージメントのトレーナー、企業サポーター、日独プロジェクトのコーディネーター、専門通訳、ジャーナリストとして活躍されています。2011年9月Arch Joint Vision社を設立 現代表。

「オイコノミア」 〜本来のエコノミーへ

『Gemeinwohlökonomie 公共善エコノミー』という欧州のロングセラー本を翻訳しました。中欧を中心に世界的な運動としても広がっているオルタナティブな経済のコンセプトです。出版社は、宮崎

中小企業家同友会に所属する 鉦脈社。今年2022年の暮に、日本の書店に並ぶ予定です。

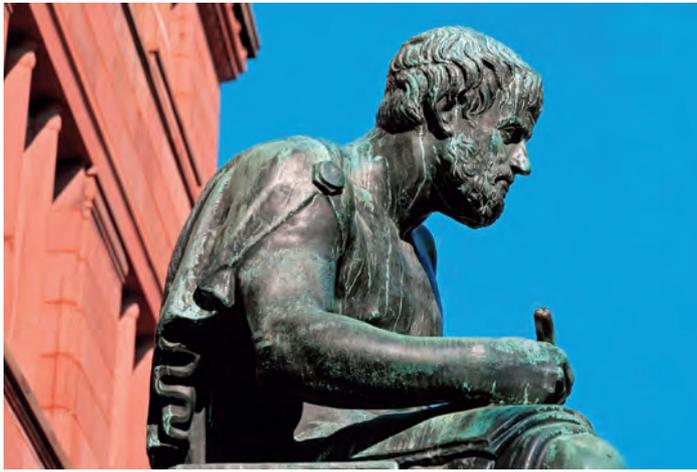
公共善エコノミーは、「尊厳」を重要なベースにしています。尊厳は、国連憲章や各国の憲法にも明記されている人間社会の根源的な価値です。ドイツの著名な脳神経生

脳を持つ人間が生物学的に得意な「協力」をベースにした社会の構築を提唱しています。公共善エコノミーは、エゴ

や妬み、無責任さといった人間の弱みを助長する「競争」でなく、信頼やリスペクト、思いやり、といった人間の美徳がもたらした「協力」を原動力とする、倫理的な市場経済のコンセプトです。並行して存在する他の類似の理論やコンセプト、運動とも、排他的な「競争」をするのではなく、「協力」し、お互いに高め合うことを推奨しています。

「オイコノミア」は「公共善エコノミー」と翻訳できます。この本来の意味でのエコノミーは、古代から現代まで、どの文化圏にも存在しています。しかし約200年前から、アリストテレスが警鐘を鳴らした『クレマティスティケ』

に相当する「資本主義市場経済」が私たちの社会を支配し、私たちの行動や人間関係、自然環境に大きな悪影響を与えています。公共善エコノミーは、手段と目的を取り違えた、金銭的な指数と貨幣価値という、上辺だけの消失点に迷い込んでいる現在の経済システム(イデオロギー)を、本来の意味でのエコノミーに戻す試みで、そのための包括的で具体的な処方箋です。「資本」によって主導される非人間的なエコノミーから、「ヒューマニティ(人間性)」が主導するエコノミーへの転換の道です。公共善エコノミーの考えや内容は、別に新しいものではありません。特に、資本家(株主)の金銭的利益よりも、家族や従業員、地域を優先して、思いやりのある誠実な経営をする中小企業にとっては、



物学者で公共善エコノミー大使でもあるゲラルト・ヒューターは、科学的な知見から、尊厳が、人間の誰もが生まれ持った生物学的な資質であることを指摘しています。ヒューターはまた、現代社会・経済の大きな原動力になっている「競争」は、生物進化論の観点から、人間の強みではない、と説明しています。そして、人間が生まれながらにして持っている資質である「尊厳」と密接なつながりがあり、可塑性の高い

アリストテレスは今からおよそ2300年前に、2つの異なる経済形態を分別しました。もともとある「オイコノミア」は、すべての参加者の幸せ、すなわち公共善が目的で、お金と資本は、そのための単なる手段です。しかしお金と資本が目的になってしまふと、「オイコノミア」は「クレマティスティケ(＝貨殖と自己の富を増殖する技法)」

に変貌します。アリストテレスは明確に、後者にならないように助言しました。「オイコノミア」は「公共善エコノミー」と翻訳できます。この本来の意味でのエコノミーは、古代から現代まで、どの文化圏にも存在しています。しかし約200年前から、アリストテレスが警鐘を鳴らした『クレマティスティケ』

●池田憲昭さんへのご連絡・ご質問はメールでどうぞ。 e-mail ikeda@arch-joint-vision.com

ドイツ学びの旅 ～視察セミナー

森林業 木の建築 BIO SLOW 食 都市農業 自然医療
文化 地域創生 企業経営 グリーンインフラ

www.arch-joint-vision.com



ドイツからの風



池田憲昭氏

プロフィール
1972年長崎県生まれ
岩手大学人文社会科学部(ドイツ文化専攻)卒業、フライブルク大学森林環境学ディプロム課程(修士相当)卒業
フライブルク地域を拠点に、ドイツ環境視察セミナーのオーガナイザー、異文化マネージメントのトレーナー、企業サポーター、日独プロジェクトのコーディネーター、専門通訳、ジャーナリストとして活躍されています。2011年9月Arch Joint Vision社を設立 現代表。

静寂のなかから
生まれるもの

ドイツの晩秋。広葉樹の黄色い落葉が街路を埋め尽くし、日照時間が日に日に短く

なり、日中も10度を下回る日が続き、どんより曇った空から、小雨がぱらつく寂寥の季節です。物寂しく、静かな時期です。内向的になり、心のなかにも静寂が訪れます。そ

の静寂のなかで、新しいアイデアが閃いたり、創造的な仕事への意欲が湧き起こってきます。

今年やり終えた『Gemeinwohlökonomie (公共善エコノミー)』の翻訳事業も、2年前の11月、ロックダウンの環境も相まって、心に深い静けさが訪れたとき、「この本を翻訳しよう」「翻訳する価値がある」という強い思いが起こり、作者にダイレクトにメールしたことから始まりました。

https://note.com/noriaki_ikeda/n/n9c15f28d5dba

思い返してみると、11月や12月の閃きや衝動がきっかけで始まった事業がいくつかあります。嵐の前の静けさ。この静寂のなかから生まれたものが、春に嵐を引き起こしました。

この時期に人間が内向的に

なるのは、生理学的な理由があります。日も短く、薄暗いどんよりした天気が続くと、視覚による知覚が鈍くなり、人間は、より耳に頼るようになり、耳の感覚が鋭敏になります。目は、外のものを「探索」する外向的な性格を持った感覚器ですが、耳は、外からの刺激を「聞き入れる」内向的な感覚器です。また、耳は目よりも遥かに繊細で、精密で、高性能です。ドイツの哲学者のハイデッカーは、耳を通して考えることの大切さを論じました。聴覚で知覚するほうが、思考のプロセスが、より分化され、より注意深く、より正確に、内向的に進行するということを。

聴覚が鋭敏になることで得られる心の静寂。

前衛の現代音楽家ジョン・ケージは、音楽活動のなかで、静寂を探索し、次の認識に辿り着きました。

「沈黙・静寂は、ざわめきが無い状態じゃなく、私の神経系と血液循環が無故意に機能していることだということ、私に聞こえた。私は、静

寂が聴覚的なものじゃないことを発見した。静寂は、意識の変化、転換だ。私は、その静寂に自分の音楽を捧げた。私の音楽は、無故意なものを探求することだった」

私が敬愛するドイツの代表的な作家ヘルマン・ヘッセは、静寂を愛した作家です。次の名言を遺しています。

「あなたのなかに静寂がありません。それは、あなたがいつでも引きこもることができ、自分自身であることができる神聖な場所です」

今年は通常だと静かなこの時期に、イレギュラーでサッカーワールドカップが開催されているので、静寂の領域に辿り着くことが阻害されていますが、森を歩きながら、音楽を聴きながら、youtubeエガをやりながら、1日のうち、数分でも、心の静寂を得られるよう、努力しようと思えます。嵐の前の静けさ。来年の春に嵐が起るように。

今回の同友いわては11月、12月の合併号となっておりますので、「ドイツからの風」を52号に引き続き53号も掲載いたします。



素心知困

「30年を写真で見る特集」はいかがでしたでしょうか。創立から10年ほどはモノクロ写真が多く、ネガしか存在しない時代も。膨大な資料のなかから探す一枚。発掘作業は難航しました。▼反面デジタルカメラの時代に入ってから30万点もの写真に埋もれ、あまりの量の多さに画面を見る目に限ができるほど。いずれの時代も企業家の中小企業が自らの力で新たな時代を開拓しようという希望に満ちた熱量の強さ。そして企業家同士、さらに社員とともに愚直に学び合い成長しよう、という意欲が一枚の画像から湧き上がってきます。▼30年という節目は単なる転換点ではないことに気づきます。今日、この日に私たちが先人達が積み重ねてきた、その運動の歩みを残さなければ、記憶も記録も次世代に繋げることができないこと。▼30周年記念誌の編集作業も最終盤。ここに関わることができる誇りとともに大きな責任を感じながら本日、記念式典を迎えます。

■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにも参加できます。ご連絡下さい。ご活用下さい。www.iwate.doyu.jp
 ■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。
 ■本紙掲載事業への出入返信は、同封のファックス返信用紙またはedyuをご利用下さい。

人と自然にやさしい
環境を創り
地域型企業として
貢献します。

岩手日化サービス株式会社
〒020-0402 盛岡市黒川 22-56
TEL 019-696-5611 FAX 696-5614

Southern Iwate
DSG
サザン岩手ドライビングスクールグループ
Southern Iwate Driving School Group

陸前高田ドライビングスクール 三陸技能講習センター
RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL Sanriku skill training center

平泉ドライビングスクール 遠野ドライビングスクール
HIRAIZUMI DRIVING SCHOOL TOHNO DRIVING SCHOOL

携帯サイトはこちら
http://www.si-dsg.com/mobile

TUENO
包装設計のプロフェッショナル「東北ウエノ」は
「適材適包」でお客様をサポート致します。

「PACKAG ENGINEERING」
詳しくはホームページで <https://www.touhokuueno.co.jp/>

株式会社東北ウエノ
〒021-0893 本社：一関市地主町3-35 TEL 0191-21-4531
〒021-0893 テクニカルセンター：一関市地主町7-15 TEL 0191-32-5020

輸送包装便覧.com <https://www.transport-package.com/>

ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで
真の循環型社会を目指します。

浄化槽保守点検 植物 光触媒 CO2 工業用廃油 浄化槽汚泥収集運搬

紫波環境株式会社
岩手県紫波郡紫波町南日詰字小路口70-1
TEL:019-672-2656 FAX:019-601-2686
<http://shiwakankyo.com/>

物を大切にし環境にやさしくありたい 使わない人から使いたい人へ
総合リユースショップ Dokidoki 2nd STREET

(株)トータル・リユース
代表取締役社長 伊瀬 幸郎
ise yukiyo

本社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町2-2-33
TEL:0193-21-2126 FAX:0193-21-2127
携帯 090-8780-3296
E-mail: trise@arion.ocn.ne.jp

注文すると「明日」来る。
オフィス・事務用品通販なら「アスクル」で

日用品 消耗品 文房具 飲料 工具

外出せずにFAX、Webにてご注文できます！
ご登録・お問い合わせは平金商店へお待ちしております。
<https://www.askul.co.jp/ag/hirakin/>

ASKUL AGENT 株式会社 平金商店
アスクルエージェント TEL:019-624-2121

オリジナルラベル
ワインを作成します

周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等

SHIWA 紫波
自園自醸ワイン 紫波
岩手県紫波町産ぶどう100%

社名ロゴ 写真 OK
包装、のし無料
12本以上 作成無料

お申し込み・お問い合わせ
Tel. 019-676-5301
自園自醸ワイン紫波 (株)紫波フルーツパーク
〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11

めだか

有限会社いわてにつかコミュニティ企画
(事業内容) デイサービス / 生活介護 / 訪問介護 / 住宅型有料老人ホーム
児童デイサービス / 相談支援事業所 / 訪問看護 / 就労継続支援 B 型

DOYU I W A T E
2022 同友いわて Vol.165 合併号

発行 / 2022年12月1日発行
岩手県中小企業家同友会
広報委員会

〒02010878 岩手県盛岡市着町4-15 カガヤ着町ビル3F
TEL 019-626-4477 FAX 019-626-1644
Mail: info@iwate.doyu.jp